

訂正後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立	授業の種類 通信	授業担当者 安藤 妙子	
授業の回数	時間数(単位数) 15	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 介護における基本的理念を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ① 間の多面的な理解と尊厳 ②自立の支援 ③人権と尊厳</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>コマ数</p> <p>1. 人間を理解すること 2. 人間の尊厳の意義 3. 人権、そして尊厳をめぐる歴史的経緯 4. 人権、そして尊厳に関する諸規定 5. 介護における自立 6. 自立への意欲と動機づけ 7. 自立した生活を支えるための援助の視点 8. 介護における自立支援の実践 9. 介護における権利擁護と人権尊重 10. 高齢者虐待の実態と介護の課題 11. 尊厳の保持をめざした介護実践 12. ノーマライゼーションの実現 13. プライバシーの保護</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護職員実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

訂正後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解 I	授業の種類 通信	授業担当者 安藤 妙子	
授業の回数	時間数(単位数) 15	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 介護保険制度の目的、しくみ、サービスの内容、専門職の役割を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ① 介護保険制度創設の背景と目的 ②介護保険制度の基礎的理解 ③介護保険制度における専門職の役割</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数</p> <p>1. 介護保険制度の創設をめぐる社会的背景 2. 1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革 3. 介護保険制度の基本理念 4. 介護保険制度の概要 5. 保険者・被保険者 6. 保険給付の対象者 7. 保険給付までの流れ 8. 保険給付の種類と内容 9. 地域支援事業 10. 国・都道府県・市町村の役割 11. その他の組織の役割 12. 介護保険の財政 13. 介護職の役割 14. 介護支援専門員の役割 15. その他の専門職の役割</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

訂正後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 安藤 妙子	
授業の回数	時間数(単位数) 90	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域で暮らす個人や家族について、人間の生活と福祉の視点からとらえたうえで、社会保障制度・障害者総合支援法等の諸制度について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①生活と福祉 ②<u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u> ③社会保障制度 ④障害者総合支援制度 ⑤介護実践にかかわる諸制度を学ぶ</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>○<u>家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。</u></p> <p>○<u>地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。</u></p> <p>○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。</p> <p>○障害者総合支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p> <p>○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>コマ数</p> <p>1. 家庭生活の基本機能 2. 家族 3. 地域 4. 社会集団と組織 5. ライフスタイルの変化 6. <u>地域共生社会とは</u></p> <p>7. 地域包括ケアシステムとは 8. 社会保障の概念・範囲 9. 日本の社会保障の発達 10. 社会保障の意義・役割 11. 社会保障の目的・機能 12. 日本の社会保障制度のしくみ 13. 年金保険 14. 医療保険 15. 後期高齢者医療制度</p> <p>16. 雇用保険 17. 労働者災害補償保険 18. 公的扶助 19. 社会手当 20. 社会福祉 21. 障害の種類と定義 22. 障害者自立支援法から障害者総合支援法へ 23. サービスの種類と内容 24. サービス利用の流れ 25. 自立支援給付と利用者負担 26. 障害者総合支援制度における事業者 27. 障害者総合支援制度における組織・団体の機能と役割 28. ライフサイクルから見た支援組織 29. サービス利用にかかわる諸制度 30. 虐待防止の諸制度 31. 人々の権利を擁護するその他の諸制度 32. 保健医療にかかわる諸制度 33. 介護職と医療にかかわる諸制度 34. 生活を支える諸制度 35. 住生活を支援する諸制度</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

訂正後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅰ	授業の種類 通信	授業担当者 安藤 妙子
授業の回数	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期 必修・選択
<p>【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持のもと自立に向けた介護を展開するために、介護福祉士の職業倫理を軸としながら介護についての理解の幅を広げる。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ①介護福祉士の役割と機能 ②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③介護福祉士の倫理</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ○介護福祉士制度の法的な定義や義務をふまえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解している。 ○個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。</p>		
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針】 コマ数 1. 介護福祉士を取り巻く状況 2. 社会福祉士及び介護福祉士法 3. 介護福祉士のキャリアパス 4. 介護福祉士の活動の場と役割 5. 利用者に合わせた生活支援 6. 自立に向けた支援 7. 自立に向けたICFの考え方 8. 自立に向けたリハビリテーションの考え方 9. 自立に向けた個別ケアの考え方 10. 介護の専門性 11. 介護福祉士としての倫理の必要性 12. 日本介護福祉士会倫理綱領</p>		
<p>【使用テキスト・参考文献】 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 演習問題による評価 70点以上で合格 （70点未満の者は再度、演習問題評価を行う）</p>

変更後

授 業 概 要

<p>授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ</p>	<p>授業の種類 通信</p>	<p>授業担当者 安藤 妙子</p>	
<p>授業の回数</p>	<p>時間数(単位数) 60時間</p>	<p>配当学年・時期</p>	<p>必修・選択</p>
<p>[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする高齢者や障害者などの生活理解をふまえたうえで、<u>介護実践のあり方や多職種や地域との連携</u>、介護における安全とリスクなどについて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①介護を必要とする人の生活の理解と支援 ②<u>介護実践における連携</u> ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護福祉士の安全</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ○<u>チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。</u> ○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ○介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 「その人らしさ」の理解 2. 高齢者の暮らしと支援の実際 3. 障害のある人の暮らしと支援の実際 4. 介護を必要とする人の生活環境の理解 5. <u>多職種連携</u> 6. <u>地域連携</u> 7. 事故防止と安全対策 8. 感染対策 9. 健康管理の意義と目的 10. 健康管理に必要な知識と技術 11. 安心して働ける環境づくり</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術	授業の種類 通信	授業担当者 安藤 妙子	
授業の回数	時間数(単位数) 60時間	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 相談援助の技術と合わせて、<u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの技法を</u>理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] <u>①介護におけるコミュニケーション②介護におけるコミュニケーション技術③介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション④介護におけるチームマネジメントとコミュニケーションを学ぶ</u></p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援することができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○<u>チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等）に関する知識を理解し、活用できる。</u> ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. コミュニケーションの意義、目的、役割 2. コミュニケーションの技法 3. 支援関係の構築と意志決定の支援 4. 話を聴く技法 5. 利用者の感情表現を察する技法 6. 利用者の納得と同意を得る技法 7. 質問の技法 8. 相談・助言・指導の技法 2. 9. 利用者の意欲を引き出す技法 10. 利用者と家族の意向を調整する技法 11. コミュニケーション障害の理解 12. 視覚の障害に応じたコミュニケーション技術 13. 視覚の障害に応じたコミュニケーション技術 14. 聴覚の障害に応じたコミュニケーション技術 15. 構音障害に応じたコミュニケーション技術 16. 失語症に応じたコミュニケーション技術 17. 高次脳機能障害に応じたコミュニケーション技術 18. 知的障害に応じたコミュニケーション技術 19. 精神障害に応じたコミュニケーション技術 20. 認知症に応じたコミュニケーション技術 21. <u>チームマネジメントの理解と活用</u> 22. <u>チームのコミュニケーションとは</u> 23. 記録による情報の共有化 24. 報告・連絡・相談による情報の共有化 25. 会議に</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護職員等実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 （70点未満の者は再度、演習問題評価を行う）</p>	

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 通信	授業担当者 安藤 妙子
授業の回数	時間数(単位数) 60時間	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] ICFの理解を前提としながら、ボディメカニクスの活用まで含め、介護の基本技術と住環境の整備や福祉用具の活用について把握する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ① 生活支援とICF ②居住環境の整備と福祉用具の活用 ③移動・移乗の生活支援技術の基本 ④食事の生活支援技術の基本 ⑤入浴・清潔保持の生活支援技術の基本 ⑥排泄の生活支援技術の基本 ⑦着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術の基本 ⑧家事援助の基本</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○自立に向けた生活支援技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を習得している。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 生活支援とアセスメント 2. ICFの視点とアセスメント 3. 居住環境の意義 4. 生活空間と介護 5. 福祉用具の活用 6. 移動・移乗の介助を行うにあたって 7. 体位変換の介助 8. 車いすの介助 9. 歩行の介助 10. 食事の介助を行うにあたって 11. 食事の介助 12. 入浴の介助を行うにあたって 13. 入浴の介助 14. 部分浴の介助 15. 清潔保持の介助 16. 排泄の介助を行うにあたって 17. 排泄の介助 18. 身じたくの介助を行うにあたって 19. 衣服着脱の介助 20. 整容の介助 21. 口腔清潔の介助 22. 生活と家事の理解 23 調理 24. 洗濯 25. 掃除・ごみ捨て 26. 衣類の補修・裁縫 27. 衣類・寝具の衛生管理 28. 買い物</p>			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」		[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)	

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 安藤 妙子	
授業の回数	時間数(単位数) 90時間	配当学年・時期	必修・選択
<p>【授業の目的・ねらい】 利用者の心身の状態に合わせた介護の基本技術の展開と福祉用具の活用や住環境の整備などについて、実践を念頭に理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ① 環境整備と福祉用具等の活用 ②移動・移乗の生活支援技術 ③食事の生活支援技術 ④入浴・清潔保持の生活支援技術 ⑤排泄の生活支援技術 ⑥着脱、整容、口腔清潔の ⑦休息・睡眠の生活支援技術 ⑧人生の最終段階における介護の生活支援技術</p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ○「環境整備」「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「休息・睡眠」「人生の最終段階における介護」「福祉用具等の活用」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針】 コマ数 1. 利用者に適した生活環境の整備 2. 利用者に適した福祉用具の選定 3. 体位変換の介助 4. 車いすの介助 5. 安楽な体位の保持と褥瘡の予防 6. 歩行の介助 7. 移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 8. 食事の介助 9. 食事に関する福祉用具とその活用方法 10. 誤嚥・窒息の予防 11. 脱水の予防 12. 入浴の介助 13. 入浴に関する福祉用具とその活用方法 14. 排泄の介助 15. 排泄に関する福祉用具とその活用方法 16. 頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応 17. その他の排泄に関するさまざまな介助 18. 衣服着脱の介助 19. 整容の介助 20. 口腔清潔の介助 21. 休息・睡眠の介助を行うにあたって 22. 睡眠の介助 23. 睡眠に関する用具とその活用方法 24. 睡眠と薬 25. 人生の最終段階における介護を行うにあたって 26. 人生の最終段階の介護 27. 介護職、家族への支援</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 演習問題による評価 70点以上で合格 （70点未満の者は再度、演習問題評価を行う）</p>	

変更後

授 業 概 要

<p>授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅰ</p>	<p>授業の種類 通信</p>	<p>授業担当者 佐藤 ゆかり</p>	
<p>授業の回数</p>	<p>時間数(単位数) 60時間</p>	<p>配当学年・時期</p>	<p>必修・選択</p>
<p>【授業の目的・ねらい】 介護過程の流れについてひととおり理解したうえで、ケアマネジメントのもと、チームで展開する際のポイントまで把握する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 ① 介護過程の意義と目的 ② 介護過程の展開 ③ <u>介護過程とチームアプローチ</u></p> <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ○ 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ○ 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ○ チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針】 コマ数 1. 介護の概念の見直し 2. 根拠にもとづいた介護の実践 3. 介護過程の必要性 4. 介護過程の展開イメージ 5. アセスメント 6. 計画の立案 7. 実施 8 評価 9. 介護過程とケアマネジメントの関係性 10 . . . <u>介護過程とチームアプローチ</u></p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

変更後

授 業 概 要

<p>授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ</p>	<p>授業の種類 通信</p>	<p>授業担当者 佐藤 ゆかり</p>	
<p>授業の回数 通信学習</p>	<p>時間数(単位数) 75時間</p>	<p>配当学年・時期</p>	<p>必修・選択</p>
<p>[授業の目的・ねらい] 個々の利用者の障害特性（心身状態）や生活の場（環境的側面）をICFの視点からとらえ、生活課題を明らかにしたうえで介護計画（個別援助計画）を作成していく。そうした介護過程の展開の実際を、事例による疑似体験もふまえて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ① 介護職による介護過程の進め方 ②介護過程の実践的展開 ③施設で暮らす高齢者の介護過程 ④在宅で暮らす高齢者の介護過程 ⑤演習課題：介護老人福祉施設で生活するGさんの事例</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 日々の実践のなかにある介護過程 2. 思考過程の訓練 3. ケアマネジメントをふまえた介護過程の展開 4. 事例で学ぶ介護過程の展開 5. 取り上げる事例と構成 6. 利用者Aさんのプロフィール 7. Aさんの家族構成および生活歴 8. Aさんの現在の状況 9. Aさんのフェイスシート 10. Aさんのアセスメント表（1） 11. アセスメント表（2）作成におけるヒント 12. Aさんのアセスメント表（2） 13. Aさんの介護計画書 14. Aさんの実施評価表 15. 【解説】Aさんの介護過程について 16. 利用者Dさんのプロフィール 17. Dさんの家族構成および生活歴 18. Dさんの現在の状況 19. Dさんのフェイスシート 20. Dさんのアセスメント表（1） 21. アセスメント表（2）作成におけるヒント 22. Dさんのアセスメント表（2） 23. Dさんの介護計画書 24. Dさんの実施評価表 25. 【解説】Dさんの介護過程について 26. 利用者Gさんのプロフィール 27. Gさんの家族構成および生活歴 28. Gさんの現在の状況 29. Gさんのフェイスシート 30. Gさんのアセスメント表（1） 31. Gさんのアセスメント表（2） 32. Gさんの介護計画書</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

訂正後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ	授業の種類 (講義 <input type="radio"/> 演習 <input checked="" type="radio"/> 実技)	授業担当者 佐藤 ゆかり
授業の回数 8回	時間数(単位数) 45時間	配当学年・時期 <input checked="" type="radio"/> 必修・選択

【授業の目的・ねらい】

介護過程について十分に理解したうえで、原理・原則を踏まえた知識と技術を総合的に活用しながら、一連の過程を利用者の心身の状況に応じて実践したものを評価する。

【授業全体の内容の概要】

- ① 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開 ② 事例1:片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援③事例 2:在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援 ④事例3:都会に住む一人暮らし高齢者の生活支援 ⑤事例4:介護老人保健施設で生活する利用者への支援

【授業修了時の達成課題（到達目標）】

- 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。
- 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。
- 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。
- 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針】

コマ数

1. 利用者のさまざまな暮らしと介護過程の展開 2. 第3章で取り上げる事例の特徴 4. 演習の進め方 5. Jさんのプロフィール 6. Jさんの家族構成および生活歴 7. Jさんの現在の状況 8. Jさんのフェイスシート 9. Jさんのアセスメント表(1) 10. Jさんのアセスメント表(2) 11. Jさんの介護計画書 (3) Jさんの実施評価表 【解説】Jさんの介護過程について 【演習】～Jさんの自立に向けた介護の実際(移動・移乗の介護)～確認・評価してみよう！ 12. Lさんのプロフィール 13. Lさんの家族構成及び生活歴 14. Lさんの現在の状況 15. Lさんのフェイスシート 16. Lさんのアセスメント表(1) 17. Lさんのアセスメント表(2) 18. Lさんの介護計画書 19. Lさんの実施評価表【解説】Lさんの介護過程について【演習】～Lさんの自立に向けた介護の実際(食事、身だしなみ、排泄の介護)～確認・評価してみよう！ 20. Nさんのプロフィール 21. Nさんの家族構成および生活歴 22. Nさんの現在の状況 23. Nさんのフェイスシート 24. Nさんのアセスメント表(1) 25. Nさんのアセスメント表(2) Nさんの介護計画書 26. Nさんの実施評価表【解説】Nさんの介護過程について【演習】～Nさんの自立に向けた介護の実際(移動・移乗、排泄の介護)～確認・評価してみよう！ 27. Qさんのプロフィール 28. Qさんの家族構成および生活歴 29. Qさんの現在の状況 30. Qさんのフェイスシート 31. Qさんのアセスメント表(1) 32. Qさんのアセスメント表(2) 33. Qさんの介護計画書 34. Qさんの実施評価表【解説】Qさんの介護過程について【演習】～Qさんの自

立に向けた介護の実際（衣類の着脱、入浴の介護）～確認・評価してみよう！

使用テキスト・参考文献]

中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」

[単位認定の方法及び基準]

実技試験・演習問題による評価点 70点以上で合格

（70点未満の者は再度、実技試験・演習問題評価を行う）

変更後

授 業 概 要

<p>授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅰ</p>	<p>授業の種類 通信</p>	<p>授業担当者 長谷 紀美子</p>	
<p>授業の回数</p>	<p>時間数(単位数) 30時間</p>	<p>配当学年・時期</p>	<p>必修・選択</p>
<p>[授業の目的・ねらい] 老化によるこころとからだの変化の特徴と日常生活への影響について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ① こころの変化と日常生活への影響 ②からだの変化と日常生活への影響</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 老化が及ぼす心理的影響 2. 自己概念と生きがい 3. 加齢にともなう身体機能の変化と日常背かつへの影響 4. さまざまな機能の変化</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

訂正後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 通信	授業担当者 長谷 紀美子	
授業の回数	時間数(単位数) 60時間	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 発達の定義、段階、課題等を踏まえたうえで、老年期に特有の心理的課題や症状・疾病等の支援の留意点について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①人間の成長・発達、②老年期の発達・成熟と心理 ③高齢者に多くみられる症状・疾病等</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○ライフサイクル各機の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ○老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。 ○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 発達の定義 2. 発達段階と発達課題 3. 各ライフサイクルの発達 4. 老年期の定義 5. 老年期の心理的課題と対応 6. 要介護状態と高齢者の心理 7. 不適応状態を緩和する心理 8. 高齢者に多く見られる症状・訴えとその留意点 9. 介護を要する高齢者によくみられる病気・病態</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

訂正後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅰ	授業の種類 通信	授業担当者 長谷 紀美子
授業の回数	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期 必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 今日的な認知症ケアの理念をベースに、<u>生活上の障害や心理・行動の特徴をふまえつつ、認知症の人や家族に対するかかわり方の基本を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要] <①認知症ケアの理念と視点②認知症による生活障害、心理・行動の特徴③認知症の人とのかかわり・支援の基本を学ぶ></p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ○<u>認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</u> ○<u>認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</u></p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 認知症ケアを取り巻く状況 2. 認知症ケアの理念 3. 認知症ケアの視点 4. 「人」と「生活」の理解 5. 認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか 6. 認知症の中核症状 7. <u>行動・心理症状（BPSD）</u> 8. 意識障害の理解 9. 生活障害の理解 10. 認知症の人にかかわる際の前提 11. 実際のかかわり方の基本 12. <u>家族への支援</u></p>		
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 （70点未満の者は再度、演習問題評価を行う）</p>

変更後

授 業 概 要

<p>授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ</p>	<p>授業の種類 通信</p>	<p>授業担当者 長谷 紀美子</p>	
<p>授業の回数</p>	<p>時間数(単位数) 60時間</p>	<p>配当学年・時期</p>	<p>必修・選択</p>
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症に対する一般的な医学的知識を有したうえで、家族や社会関係まで含めてアセスメントし、状況に応じた支援を行っていくことを理解する。その際には、地域のサポート体制を活用することも念頭に置く。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①医学的側面から見た認知症の理解 ②認知症の人への支援の実際</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念にもとづいた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症とは 2. 認知症の診断 3. 認知症の原因疾患とその病態 4. 認知症の治療と予防 5. 認知症のアセスメント 6. 中核症状へのかかわり方の実際 7. B P S D（行動・心理症状）へのかかわり方の実際 8. 環境の整備 9. 認知症ケアにおけるチームアプローチ 10. 認知症の人へのさまざまなアプローチ 11. 地域生活の支援 			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅰ	授業の種類 通信	授業担当者 長谷 紀美子	
授業の回数	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 今日的な障害者福祉の理念のもと、さまざまな障害ゆえの生活上の不具合や心理・行動の特徴をふまえ、当事者や家族に対する支援の基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①障害者福祉の理念 ②障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史をふまえ今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害のある人やその家族に対するかかわり方・支援の基本を理解している。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 「障害」のとらえ方 2. 国際障害分類と国際生活機能分類 3. 障害者福祉の基本理念 4. 障害の法的定義 5. 身体障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 6. 知的障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 7. 精神障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 8. 高次脳機能障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 9. 発達障害による生活上の障害と心理・行動の特徴 10. 難病による心理・行動の特徴 11. 障害のある人へのかかわり・支援の基本 12. 家族の理解と障害の受容支援 13. 介護負担の軽減</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護職員等実務者研修テキスト」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)</p>	

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 通信		授業担当者 長谷 紀美子
授業の回数	時間数(単位数) 60時間	配当学年・時期		必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] さまざまな障害についての医学的な知識の把握を前提に、当事者の障害や環境についてアセスメントを行い、地域のサポート体制も活用しつつ支援していくことを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①医学的側面からみた障害の理解 ②障害の特性に応じた支援の実際</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○さまざまな障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 ○障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 視覚障害 2. 聴覚・言語障害 3. 運動機能障害 4. 心臓機能障害 5. 呼吸機能障害 6. 腎臓機能障害 7. 膀胱・直腸機能障害 8. 小腸機能障害 9. ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 10. 肝臓機能障害 11. 知的障害 12. 精神障害 13. 高次脳機能障害 14. 発達障害 15. 難病 16. アセスメントの視点と個別支援 17. 障害のある人がふつうに暮らせる地域づくり 18. 地域におけるサポート体制</p>				
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護職員等実務者研修テキスト」</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 （70点未満の者は再度、演習問題評価を行う）</p>	

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみ I		授業の種類 通信		授業担当者 安藤 妙子	
授業の回数	時間数(単位数) 60時間	配当学年・時期		必修・選択	
<p>[授業の目的・ねらい] 移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱・整容・口腔清潔、睡眠に関連するからだのしくみなど、介護職が支援を行う際に前提となる身体の機能と構造について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①移動・移乗に関連するからだのしくみ ②食事に関するからだのしくみ ③入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ ④排泄に関連するからだのしくみ ⑤着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ ⑥休息・睡眠に関連するからだのしくみ ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、演習問題を解答させ、評価する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 移動・移乗に関連する基本的な姿勢 2. 移動・移乗に関連する基本的なからだのしくみ 3. 食事に関連する基本的なからだのしくみ 4. 栄養素とエネルギー 5. 代償的な栄養摂取法 6. 入浴・清潔保持に関連する基本的なからだのしくみ 7. 入浴と清潔保持の意味 8. 排泄に関連する基本的なからだのしくみ 9. 着脱、整容、口腔清潔に関連する基本的なからだのしくみ 10. 着脱、整容、口腔清潔の意味 11. 休息・睡眠に関連する基本的なからだのしくみ 12. こころのしくみ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」			[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)		

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 通信	授業担当者 安藤 妙子
授業の回数	時間数(単位数) 180時間	配当学年・時期	必修・選択
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の基本的な欲求や学習・記憶、ボディメカニクス等、心身の構造と機能、特徴を把握したうえで、アセスメントや観察、他職種との連携などを駆使しながら展開する介護についての理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ①人間の心理 ②人体の構造と機能 ③移動・移乗における観察のポイント ④4食事における観察のポイント ⑤入浴・清潔保持における観察のポイント ⑥排泄における観察のポイント ⑦着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント ⑧休息・睡眠における観察のポイント ⑨人生の最終段階のケアにおける観察のポイント</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。 ○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 1. 人間の欲求の基本的理解 2. こころのしくみの基礎 3. 生命の維持・恒常のしくみ 4. 人間のからだのしくみ 5. ボディメカニクスの活用 6. 移動・移乗を阻害する要因の理解 7. 移動・移乗における変化に気づくための観察のポイント 8. 移動・移乗における医療職との連携のポイント 9. 食事を阻害する要因の理解 10. 食事における変化に気づくための観察のポイント 11. 食事における医療職との連携ポイント 12. 入浴を阻害する要因の理解 13. 入浴・清潔保持における変化に気づくための観察のポイント 14. 入浴・清潔保持における医療職との連携のポイント 15. 排泄を阻害する要因の理解 16. 排泄における変化に気づくための観察のポイント 17. 排泄における医療職との連携のポイント 18. 身じたくを阻害する要因の理解 19. 着脱、整容、口腔清潔における変化に気づくための観察のポイント 20. 着脱、整容、口腔清潔における医療職との連携のポイント 21. 睡眠を阻害する要因の理解 22. 睡眠における変化に気づくための観察のポイント 23. 終末期の理解 24. こころのしくみ 25. 終末期から危篤状態の変化の特徴 26. 死後の対応 27. 人生の最終段階のケアにおける医療職との連携のポイント 28. 家族へのケア</p>			
[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」		[単位認定の方法及び基準] 演習問題による評価 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)	

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実技)	授業担当者 池田 枝里
授業の回数 通信学習＋演習 2 回	時間数(単位数) 通信：150時間＋演習：12 時間	配当学年・時期 必修・選択

[授業の目的・ねらい]

法制度や倫理等をふまえた医療的ケアの基礎的知識について把握したうえで、急変時や事故発生時の対応などもふまえた喀痰吸引と経管栄養の実施手順について理解する。

[授業全体の内容の概要]

- ① 医療的ケア ②安全な療養生活 ③清潔保持と感染予防 ④健康状態の把握 ⑤高齢者および障害児・者の
 喀痰吸引概論 ⑥高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ⑦高齢者および障害児・者の経管
 栄養概論 ⑧高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

【医療的ケア実施の基礎】

- 医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解している。
- 医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解している。
- 感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。

【喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）】

- 呼吸のしくみとはたらき、吸引を受ける人の気持ちの理解など、喀痰吸引の基本的知識を理解している。
- 喀痰吸引における急変・事故発生時の対応などについて理解している。
- 喀痰吸引の実施手順（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）を理解している。

【経管栄養（基礎的知識・実施手順）】

- 消化器系のしくみとはたらき、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を理解している。
- 経管栄養における急変・事故発生時の対応などについて理解している。
- 経管栄養の実施手順（胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養）を理解している。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]

コマ数

- ① 喀痰吸引等制度（社会福祉士及び介護福祉士法の改正） ②医療的ケアと喀痰吸引等の背景 ③医行為について ④その他の制度 ⑤喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 ⑥救急蘇生 ⑦感染予防 ⑧介護職の感染予防 ⑨療養環境の清潔、消毒法 ⑩消毒と滅菌 ⑪身体・精神の健康 ⑫健康状態を知る項目（バイタルサインなど） ⑬急変状態について ⑭高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ⑮高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ⑯高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ⑰

高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説

[使用テキスト・参考文献]

中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト」

[単位認定の方法及び基準]

演習問題による評価 70点以上で合格

(70点未満の者は再度、演習問題評価を行う)

変更後

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア		授業の種類 （講義・演習・実技）		授業担当者 池田 枝里	
授業の回数 通信学習＋演習 2 回	時間数(単位数) 通信：150時間＋演習：12 時間	配当学年・時期		必修・選択	
<p>[授業の目的・ねらい] 喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法について、演習を通じて一連の流れ（手順）を1人で実施できるよう修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ① 喀痰吸引のケア実施の手引き ②経管栄養のケア実施の手引き ③救急蘇生法の手引き</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○喀痰吸引のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ○経管栄養のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。 ○救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを、1回以上行う。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針] コマ数 ① 口腔内および鼻腔内 ②気管カニューレ内部 ③胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 ④経鼻経管栄養 ⑤救急蘇生法 ⑥AED使用の手順</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規「介護職員等実務者研修テキスト」</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] 【演習】・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部それぞれのシミュレーター演習を5回以上、指導者評価によって合格とする。経管栄養胃ろう又は腸ろう・経鼻、それぞれのシミュレーター演習を5回以上、指導者評価によって合格とする。※通信・演習（喀痰吸引・経管栄養）、両方の合格により科目の修了を認定する。演習問題による添削 70点以上で合格</p>		